

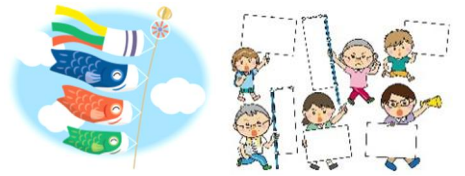
平和と福祉のまち 西宮をつくる会

2026年
春季号

通信

西宮市染殿町3-11 酒井ビル1階

Tel 0798-61-8877 Fax 61-8878



平和と福祉のまち西宮をつくる会
代表

広田かずや

戦争を止めて命と暮らしを守れ！ 全国で市民が抗議の声



「4/19イラン攻撃今すぐやめろ！
パレスチナ 連帯！御堂筋デモ」で
訴える広田かずや代表

2月28日にアメリカ、イスラエルによるイラン攻撃が始まり、多くの命が理不尽に奪われ続けています。ホルムズ海峡の封鎖で石油が止まり、石油価格の暴騰は物価高騰に苦しむ市民生活に追い打ちをかけています。トランプの国際法を無視した身勝手なイランへの侵略戦争に、世界中で、そして日本でも怒りが渦巻いています。

4月19日には、全国44都道府県199カ所でデモ、スタンディング、集会が持たれ、5万人を超える市民が手作りプラカード、ペンライトで抗議の声をあげました。全国で市民は声を上げ続けています。

しかし、高市政権は「武器輸出」を全面解禁し、軍事費拡大から憲法改悪へと戦争への道を突き進んでいます。大軍拡は社会保障費の削減と増税です。「戦争反対・憲法守れ」「武器ではなく暮らしに回せ」と市民一人ひとりが声を上げ、戦争を止めて、命と暮らしを守っていきましょう。

市議会選挙で寄せられた皆さんの声を西宮市へ届けます！

広田かずやが街頭で訴えた内容(2.3面参照)

こんなことは許せません

- 財政難を理由に市民サービスを120項目にわたり廃止・削減。
- 待機児童全国ワースト2位の西宮で、公立保育所・幼稚園を統廃合し、16か所減らす。
- 介護の問題では、訪問介護事業所が16カ所も閉鎖しているのに、実態調査すらお金がかかると拒否をする。
- 全国で学校給食費無償化の流れの中で、西宮では4月から値上げし、補助金との差額を保護者負担させる。
- 老朽化した公営住宅も修繕せず、住民が出て行くと住宅を壊して跡地を売却する。
- その一方で256億円もの大型開発。お金の使い方が間違っています。

2026年3月29日 西宮市議会議員補欠選挙選挙結果			
かみたに ゆみ	自由民主党	76,534	
前川 和裕	無所属	34,768	
★広田 かずや	無所属	22,448 (15.6%)	
はっとり 修	市民生活を守る会	10,186	

「弱い者に手を差し伸べてほしい」「生きづらい世の中を何とかしてほしい」等々。街頭で皆様から寄せられた生の声からいっぱい学びました。

22,448人の声を西宮市に届け、「一人ひとりが大切にされ、暮らしやすい西宮」に変えていきたいとの思いをさらに強くしました。

選挙前から集めてきた二つの署名 ①「大規模開発よりも、市の財源を福祉・介護・保育に回せ！」②「軍事費の増加に反対し、平和施策の充実を求める」を継続して取り組みます。ご協力よろしくお願ひします(6/11締切)。

6月市議会に向け、行政への要請・請願を行います。

(平和と福祉のまち西宮をつくる会 代表 広田かずや)

「財政構造改善」を理由とした 保育、教育、福祉切り捨てに反対します

◆公立保育所・幼稚園の削減計画を直ちに中止せよ

●全国ワースト 2 位の待機児童 入所保留者数は 3 年連続千人超え

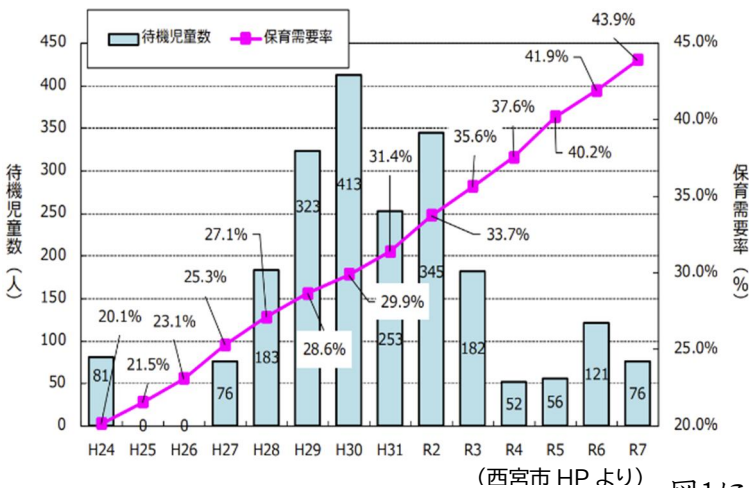


図1 保育需要の推移
(西宮市のホームページより)

西宮市の保育所待機児童数(国の基準)は、昨年4月時点で76人で全国ワースト2位(2年連続)、国の基準に当てはまらない「隠れ待機児童数」は3年連続千人を超え、入所希望者の約3人の1人が認可保育園に入所できていない実態です。

「市は今後、少子化の進展で過剰供給に転じるとみて、保育所やこども園の新設を控え、幼稚園から保育機能を持つこども園への移行に注力。」(3/27神戸新聞)としていますが、

図1に示されるように保育所を希望する家庭割合の増加傾向が続いています。市の保育所削減計画はこの増加する保育需要を全く無視した、誤った方針です。

●保育所削減で隠れ待機児童が増加する

「隠れ待機児童」の多くが、こどもの送迎に便利な「特定の保育所を希望しているため」という理由で保留になっています。保育所削減で地域から通所可能な保育所が減れば「隠れ待機児童」がさらに増えることは明らかです。さらに統合される施設は最大200人規模の大規模園となり、安全面でも不安の声が上がっています。

●「財政改善」を理由に保育を切り捨てるな

市は公立保育所削減が「財政改善」につながると考えています。公立保育所を閉じて民間保育所を増やすとしていますが、保育需要の増加に全く追いついていません。「働きたいのに、仕事に就いてないからという理由で保育所に落ちた。どうすればいいの」という一人親の声に市は応えなければなりません。「子育てするなら西宮」「住みやすいまち西宮」を看板にするなら保育への予算は最優先にしなければなりません。地域に保育所を適正に配置すると共に、保育士不足解消のため、市独自の処遇改善策の拡大を求めています。

施設名	計画	実施年度
南甲子園幼稚園	閉園	2025年実施
浜脇保育所	浜脇こども園	
浜脇幼稚園	閉園 (こども園に統合)	
芦原保育所	閉園	2026年実施
芦原むつみ保育所	芦原あおぞらこども園	
あおぞら幼稚園	閉園 (こども園に統合)	
今津文協保育所	閉園	2027年予定
高須西保育所	鳴尾ブロックこども園	
鳴尾東幼稚園	閉園 (こども園に統合)	
瓦木みのり保育所	閉園 (こども園に統合)	2028年予定
春風幼稚園	上甲子園ブロックこども園	
上ヶ原幼稚園	閉園	
北夙川保育所	夙川エリアこども園	2029年予定
越木岩幼稚園	閉園 (こども園に統合)	
高木幼稚園	甲東ブロックこども園	
門戸幼稚園	閉園 (こども園に統合)	
生瀬幼稚園閉園	閉園	
鳴尾北保育所	閉園	2030年予定
朝日児童館	閉園	2031年予定
夙川幼稚園	閉園 (こども園に統合)	
大社幼稚園	大社エリアこども園	
大社保育所	閉園 (こども園に統合)	
山口幼稚園	閉園	

◆地域の介護を守れ！中小事業所に市独自の財政支援を

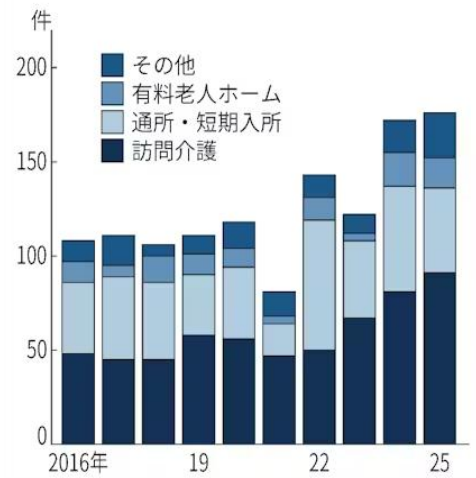
●地域の介護サービスを支える中小介護事業所への支援は急務

東京商工リサーチの調査では、2025年における老人福祉・介護事業全体の倒産数は、過去最多だったことが分かりました（右グラフ）。最も顕著なのは、介護報酬が下げられた訪問介護の分野です。西宮市内でも過去2年間で16の訪問介護事業所が閉鎖しています。低賃金が問題となっている介護職員の人手不足も深刻です。

このままでは地域の介護は崩壊します。当会にもすでに「希望する介護サービスを受けられなかった」という市民の声が寄せられています。

地域の介護を守るのは自治体の責任です。訪問介護報酬切り下げ分を公費で負担し事業者を支援している品川区など、全国で自治体独自の事業者支援策が行われています。西宮市は「国の支援制度の活用」と言うばかりで、中小事業者を支援する有効な対策をとろうとしていません。利用者にさらなる負担増を強いる介護保険制度改悪に反対し、事業者支援策を市に要求します。

介護事業者の倒産件数は過去最多



(日本経済新聞 記事より)

◆市営住宅募集の拡大を

●市営住宅 - 100倍を超える応募状況

右の表は昨年12月の市営住宅入居募集の倍率表です。20軒の住宅に500人を超える応募があり、100倍を超える住宅もありました。

毎回の募集でこのような高倍率の状況です。市は、市営住宅の老朽化を理由に空きが出て募集を行わず、規模を縮小した建て替え、住み替え計画をうちだしています。これも「財政改善」の一環なのです。

中低所得者向けの市営住宅を減らす一方で、富裕層向けのタワーマンション建設を中心とする大型開発には予算をつぎ込む現在の市のあり方を変えていきましょう。

普通空家住宅

申込区分	住宅名	間取	募集戸数	総応募数	総募集倍率
B1	甲子園春風町2号棟	2LDK	1	6	6.00倍
B2	津田町住宅	2DK	1	111	111.00倍
B3	甲子園春風町2号棟	1LDK	1	69	69.00倍
B4	甲子園九番町1号棟	1LDK	1	121	121.00倍
B5	高須町1丁目1号棟	2DK	1	42	42.00倍
B6	甲子園口6丁目1号棟	1DK	1	31	31.00倍
B7	上ヶ原七番町3号棟	3K	1	5	5.00倍
B8	上ヶ原七番町3号棟	3K	1	4	4.00倍
B9	獅子ヶ口町2号棟	3DK	1	1	1.00倍
B10	六軒町2号棟	3DK	1	1	1.00倍
B11	甲子園春風町1号棟	2LDK	1	30	30.00倍
B12	甲子園春風町3号棟	2DK	1	40	40.00倍
B13	小松北町1丁目	2DK	1	25	25.00倍
B14	上田東町	3DK	1	6	6.00倍
B15	上ヶ原八番町17号棟	3DK	1	0	0.00倍
B16	上ヶ原十番町1号棟	3DK	1	0	0.00倍
B17	樋ノ口町1丁目3号棟	3DK	1	3	3.00倍
B18	東山台1丁目2号棟	3DK	1	2	2.00倍
B19	西宮浜4丁目1号棟	1DK	1	10	10.00倍
B20	泉町2号棟	3DK	1	2	2.00倍
空家住宅		小計	20	509	25.45倍

(西宮市 HP より)

◆歳入は予想以上に増加 - 「財政構造改善」の抜本的見直しを

西宮市は「市税や県税交付金等の歳入が見込みよりも28億6,500万円上振れした」(R6年度決算)と公表し、今後も歳入増は見込めるとしています。一方で「財政構造改善計画を着実に実行」として、市民サービスの切り捨てを見直そうとはしていません。

歳入の増加に見合った市民サービス削減計画の中止はできるはずですが、さらに学校給食の無償化など物価高対策、市民生活支援策に予算を振り向けるべきです。一人ひとりが大切にされる西宮市にしていくために、市民の声を市政に届けていきましょう。

<7月5日 平和をつくる写真展（11:00～18:00 フレンテギャラリー）を開催予定>

ガザやパレスチナをはじめ戦禍で苦しむ子どもたちの幸せに生きる権利を守っていくことは、私たちの地域の子もたちが平和な社会で暮らせる道筋につながります。写真展と一緒に創りませんか？ 写真展実行委員会として開催します。「命・暮らしに YES!戦争に NO!」を心から宣言できるまち西宮をとともにめざしましょう！

・子どもたちが平和に生きる権利を！・

「暴力が再び、ヨルダン川西岸地区に暮らすパレスチナの子どもたちの命を奪いました。3月14日、タムンの町で、5歳と7歳の兄弟が、乗っていた車の中で両親と共にイスラエル軍の銃撃を受け死亡しました。2025年1月以降、東エルサレムを含むヨルダン川西岸地区では、パレスチナの子ども65人が殺害され760人以上がけがを負っています。ほぼ毎週、1人の子どもが殺されている計算になります。犠牲者のほとんどは実弾によって命を奪われています。」（ユニセフより）



ガザ避難キャンプで、戦争で負傷した子どもと、ケアするスタッフたち（Roya News English 4/17）



西岸地区トウルカレムの芸術センターでは、絵画で子どもたちの心のケアを行っています。（フリージャーナリスト西谷文和さん報告より）

夜空に響く「NO WAR！」

4/12・5/9西宮北口でスタンディング

アメリカ・イスラエルによるパレスチナ・ガザやイラン攻撃に対して、全国で反対デモが起きています。

西宮北口でもスタンディングがありました。

静かにスタンディングをする人、「戦争やめろ」「平和憲法まもれ」のコールをする人、手作りのメッセージボードを掲げる人、ペンライトを持つ人、一人ひとりの思いで表現しました。



主催：「一人ひとりが大切にされる社会へ
—政治を変えよう」アピール行動 4/12



当会ブログ
<https://heiwafukushi.blog.fc2.com>



広田かずや

■通信をお読みいただきありがとうございます。
通信は無料です
(読者登録は会スタッフまで)
会を支えていただく会員も募っています。
(寄附・年会費 1口1000円)

★平和と福祉のまち西宮をつくる会 事務所★
〒662-0913
西宮市染殿町 3 番11号 酒井ビル1階
Tel 0798-61-8877 Fax 61-8878



戦争は絶対だめと伝え続ける「弾痕の残る橋」

～風化させずに語り継いでいきたい～

「弾痕の残る橋」移設・保存 1.25記念の集いが開催



記念の集いの早朝、花と折り鶴を捧げました

1月25日、学文公民館講堂で「～鳴尾地区に残る戦争遺跡～『弾痕の残る橋』移設・保存1.25記念の集い」が『鳴尾村誌を読み、戦争を語り継ぐ会』の主催で開催されました。

1945年8月5日から6日にかけての阪神大空襲で、爆弾の大きな傷跡のできた橋の移設・保存を祝う集いに会場は満杯になりました。この橋の上で亡くなられた方の遺族や住民の皆さんの長い間の願いでした。移設・保存を「出発点」として語り継いでいくために、様々な世代の方が、これまでの思いを交流し、「平和」について、自分にできることを考えるあたたかい場になりました。

「橋の保存」に関わった皆さん
が一堂に会し語ってくれました



この橋のたもとで亡くなられた方、戦争で亡くなられたすべての方に黙祷。「橋のレプリカ」に献花と鳴尾小学校の子どもたちが千羽鶴を捧げて開会しました。

集いの冒頭、学文殿町自治会長より挨拶を受け、「広島原爆の少し前にここで悲惨な空襲が起こって

た、その傷痕をなんとか保存したいと相談し、『阪神大空襲を後世に伝え風化させない』というテーマで地元中学生とフィールドワークをおこないました。多くの方のご尽力で保存された」と感謝を伝えられました。

封印していた「体験者から聞いた生の声」を今、話します



戦後30年の時、20代半ばで橋の近くに引っ越してきたSさん。戦争当時子どもと一緒に空襲を体験した地元の商店の方から「あなたも若いから、もしこれから戦争に向かうような

ことがあれば絶対にやめてほしい」「覚えておいてほしい」と何度も聞かされたこの川であったリアルな空襲後の悲惨な光景。「いつかは話さなくては」と思いながら、あまりにも辛い話で、封印していたが、「ここで話します」と、声を詰まらせながら語ってくださいました。



遺族の帆足さんご夫妻

遺族の方からは、「空襲で祖母と叔母がこの橋で亡くなった。父も亡くなっていたら、自分はこの世にいなかった」「生き残った父が文化の道に進み『戦争は文化を奪う』と発信し続けていた」と報告されました。



三姉妹のみなさん

地元冊子「宮っ子」に「橋」のことを掲載し取り上げてこられたお話。浜脇地区で「戦争体験者の語り継ぐ会」を毎年を続けられ、鳴

尾の橋のこともいろんな方に話してこられたお話。「三姉妹の戦争の記憶」の「戦争体験の冊子」で多くのつながりが作られ広がったお話など、それぞれの立場で、保存に取り組んでこられた皆さんの声が、参加者の胸に響きました。

次の世代へ大きな希望 ➡ (裏面)

➡ 若い世代へ戦争体験者の声をつなげていきたい

～「映像作品・歌・戦争体験の冊子」で語り継ぐ～

「三姉妹の戦争の記憶」の取材から「継」(映像作品)を制作



鳴尾高校放送部が制作したテレビドキュメント画面

「三姉妹の戦争の記憶」の冊子は、橋の近くの鳴尾高校の高校生から取材依頼が入りました。NHK 放送コンテスト「テレビドキュメント部門」に「西宮の戦争体験を語り継ぐ」番組を制作・応募し、全国大会に出場しました。



「戦争遺跡の碑文」を朗読する 鳴尾高校放送部のみなさん



鳴尾高校放送部高校生により橋の碑文が朗読されました。「戦争の恐ろしさを後世に伝え、亡くなられた方々を偲び、二度と戦争を繰り返さないという多くの人の願いにより、貴重な戦争遺跡としてご場所に移設されました。」昨年制作されたドキュメント「継」の放映のあと、「考える経過が大事だと知った」「新聞を読むようになった」など一人一人自分の変化を述べられました。



「継～命の橋」を熱唱する高田志麻さん

「私にできることは音楽で伝えること」～合唱曲「継～命の橋」～

シンガーソングライター高田志麻さんは、昨年5月に「毎日小学校に通う時に渡っていた橋」が戦争の痕跡のある橋と知りました。それから、体験を聞いたり調べたりして考え、「私にできることは音楽を通して伝えること」と合唱曲「継～命の橋」を制作し、初披露。「この傷跡は命の跡」と戦争の被害者に優しく寄り添い、つないでいく気持ちを力強く歌われました。

「戦争は絶対にいけません」の 声を私たちが語り継ぐ番に!



記念の集い終了後に「橋」の前で記念撮影 ぜひ、橋の見学をお願いします(地図参照)

鳴尾地区の戦争遺跡として、学文殿公園に大切に保存された「橋」。これからも西宮の空襲を継承の取り組みを続け、子どもたちが戦火にまきこまれない世界を、西宮から発信していきたいです。

(吉崎 恵美子)